

第10 調布市福祉人材育成センターの運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	調布市福祉人材育成センターの運営 (重点項目)		市	市	○

1 福祉人材の養成

結果の概要

- 令和3年度まで実施していた高齢者家事援助ヘルパー養成研修は令和4年度から委託がなくなったため、知的障害者移動支援従業者養成研修、介護職員初任者研修、重度訪問介護従業者養成研修、医療的ケア支援者養成研修（特定の者）、同行援護従業者養成研修、行動援護従業者養成研修の6研修を合計8回実施した。
- 新規事業として、医療的ケア児等支援技術向上研修を集合型で2回、派遣型で1回実施した。
- 介護職員初任者研修は新型コロナウイルス対策のため定員を少なくして実施した。受講生は令和3年度よりも少ない7人であった。
- 介護職員初任者研修ではホームヘルプ同行実習を、知的障害者移動支援従業者養成研修では現場実習を中止し、それぞれ演習プログラムで対応した。
- 介護職員初任者研修では独自講義として、障がいについての理解を深めるために、障害福祉サービスを利用しながら地域生活を行っている障がい当事者に話をしてもらう時間を設けた。
- 介護職員初任者研修ではホームヘルプの業務や魅力について伝えるため、ホームヘルプ場を講師が再現しながら説明する時間を設けた。
- 資格研修全体の受講者数は82人で、高齢者家事援助ヘルパー養成研修を実施していた令和3年度よりも87人減少した。定員充足率は63%で令和3年度よりも15ポイント下降した。
- 資格研修の修了者アンケート回答者の94%が研修について「大変満足」「満足」と回答した。
- 福祉のしごと相談・面接会では令和3年度よりも参加者が15人少ない44人だった。就職者は15人で就職率は34%で令和3年度よりも高かった（令和3年度は16%）。事業所のPRについては動画を作成し、期間限定で配信した。

実績等

○資格研修の参加状況

講義	実習	内容	講師	受講者 (定員)	定員 充足率	修了者
6月4日 5日	6月11日 ※演習	知的障害者移動支援 従業者養成研修（第1 回）	・調布市社会福祉事業 団職員4人 ・他外部講師5人	11 (20)	55%	11
1月28日 2月4日	2月5日 ※演習	知的障害者移動支援 従業者養成研修（第 2回）	・調布市社会福祉事業 団職員4人 ・他外部講師5人	16 (20)	80%	16
6月24日 25日	6月28日～ 8月23日	重度訪問介護従業者 養成研修	・調布市社会福祉事業 団職員3人 ・他外部講師3人	8 (15)	53%	8

第1部 第10調布市福祉人材育成センターの運営

7月9日 10日		医療的ケア支援者養成研修(特定の者)(第1回)	・外部講師2人	4 (10)	40%	4	
1月21日 22日		医療的ケア支援者養成研修(特定の者)(第2回)	・外部講師2人	4 (10)	40%	4	
なし	7月11日~ 3月31日	医療的ケア支援者養成研修(特定の者)(実地研修)	なし	7		7	
なし	4月1日~3 月31日	医療的ケア支援者養成研修(特定の者)(実地研修のみ)	なし	9		9	
9月13日 ~11月18 日	10月18日 ~11月4日	介護職員初任者研修	・調布ゆうあい福祉公 社職員6人 ・調布市ちょうふの里 職員7人 ・他外部講師10人	7 (16)	43%	7	
10月19 日~22 日、28日 29日		同行援護従業者養成 研修(一般・応用課程)	・東京都盲人福祉協会 職員2人 ・外部講師1人	16 (16)	100%	16	
12月8 日9日16 日17日		行動援護従業者養成 研修	・外部講師11人	16 (24)	67%	15	
計				82 (131)	63%	81	
				16 (定員無)			
				98			97

○資格研修受講者の概況

①参加人数と定員充足率の推移(過去3年)

	令和2	令和3	令和4
同行援護(一般課程)		16(100%)	16(100%)
同行援護(応用課程)		15(93%)	16(100%)
介護職員初任者研修	16(100%)	14(88%)	7(43%)
移動支援	16(100%)	43(86%)	27(67%)
重度訪問介護	7(46%)	8(53%)	8(53%)
行動援護	24(100%)	23(96%)	16(67%)
医療的ケア支援者養成 研修(特定の者)	4(40%)	16(53%)	8(40%) ※実地研修を除く
合計	67(82%)	135	98

②令和4年度受講生性別・平均年齢

	男性	女性	平均年齢
同行援護（一般・応用課程）	1	15	51.7
介護職員初任者研修	1	6	53.0
移動支援	5	22	49.8
重度訪問介護	0	8	52.6
行動援護	6	10	44.9
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	2	6	43.0
合計	15	67	49.2

③令和4年度受講生の受講動機（複数回答）

	資格を取得して就労したい	現在の業務に役立たい	介護・障がいについて学びたい	高齢者・障がい者（児）を支援したい	地域の役に立ちたい	その他
同行援護（一般・応用課程）	9	10	7	10	9	0
介護職員初任者研修	7	2	5	3	4	0
移動支援	8	14	19	18	11	1
重度訪問介護	7	2	6	5	4	0
行動援護	5	13	9	10	6	0
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	1	7	1	3	1	1
合計	37	48	47	49	35	2

④令和4年度修了生の研修満足度

	とても満足	満足	まあまあ	やや不満	不満
同行援護（一般・応用課程）	14	2	0	0	0
介護職員初任者研修	4	1	1	1	0
移動支援	16	11	0	0	0
重度訪問介護	5	2	0	1	0
行動援護	9	2	1	0	0
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	4	4	0	0	0
合計	52	22	2	2	0

(回答数 78 件)

⑤令和4年度新規活動者数（新規・継続）

新規：資格をいかして事業所に登録した者、新たに福祉分野で活動を開始した者

継続：福祉職として継続して従事している者

その他・不明：無職、福祉職以外の職を継続従事している者、その後の活動が不明の者

	新規	継続	その他・不明
同行援護（一般・応用）	6	8	2
介護職員初任者研修	2	2	3
移動支援	2	1	8
重度訪問介護	0	3	5
行動援護	1	3	3

医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	0	8	0
合計	11	25	21

(回答数 57 件)

○医療的ケア児等支援技術向上研修(新規)

(1) 集合型研修

日時	1月14日 ①9:30~12:30 ② 13:30~15:30
場所	こころの健康支援センター別館2階研修室
内容	①災害・緊急時の対応とリスクマネジメント ②重い障害のある方のコミュニケーション支援
講師	下川和洋氏(NPO 地域ケアさぼーと研究所)
受講生	①10人(定員10人) ②11人(定員10人)

(2) 派遣型研修

日時	2月10日 10:00~12:00
場所	通所運動療育アットスクール調布
内容	医療ケアの基本的な手技とリスクマネジメント
講師	井上智子氏(看護師)

○就労支援事業の概況

日	時間	内容	出展事業所	参加者	新規就労者数
11月19日	14:00~16:00	福祉のしごと相談・面接会	13	44	15(34%)

○就職説明会の参加者の現在の仕事

	福祉職	学生	無職	その他
福祉のしごと相談・面接会	11	1	18	14

○就職説明会の参加者の保有資格(複数回答)

	初任者研修	実務者研修	介護福祉士	社会福祉士	看護師	資格なし	その他
福祉のしごと相談・面接会	12	4	11	1	4	12	9

分析・課題

- 介護職員初任者研修は例年より申込者が少なかった。新型コロナウイルスの影響によって身体的接触を伴う業務が回避傾向であること、労働市場において福祉職そのものを選択する人が減少していること等が原因として考えられる。
- 受講動機を見ると、「介護・障がいについて学びたい」「高齢者・障がい者(児)を支援したい」等のやりがいや生きがいを求めるような内発的動機のものが多い。一方「資格を取得して就労したい」人は全体の16.9%で、「学びたい」「支援したい」という人たちを活動に向けて動機づける必要があることが改めてわかった。
- 資格研修受講者のアンケートの自由記述の回答を見ると、当事者の話が受講生に強い印象を与えてい

ることがわかる。資格取得後の活動への動機づけになると思われるため、今後も可能な限り当事者の語りを研修場面に取り入れたい。

- 資格取得後にヘルパー等の活動につながった人はアンケート回答者の19.2%であった。活動につながる人をさらに増やすために、令和5年度は事業所についての情報提供を充実させたい。
- 医療的ケア支援者養成研修（特定の者）では緊急時の対応について十分な時間をとることができないため、「災害・緊急時の対応とリスクマネジメント」というテーマで研修を企画した。今回は訓練用の人形とアプリを用いて心臓マッサージと人工呼吸の演習を実施したが、小児や気管切開の方への対応についても今後研修を実施したい。
- 新規事業の医療的ケア児等支援技術向上研修では、派遣研修を希望する事業所が1ヶ所のみであったため、令和5年度は本事業をもっと活用してもらえるように広報を行いたい。

2 専門性の向上

結果の概要

- 階層別研修は「初任者研修」「中堅職員」「管理職・施設長研修」を実施した。「管理職・施設長研修」は「チームリーダー研修」と交互に行うため、2年ぶりに実施した。
- テーマ別研修はオンデマンド配信型が9講座、集合型が8講座、Zoomによるオンライン型が1講座の合計18講座を実施した。
- 専門研修全体の参加者は1148人で令和3年度よりも減少した（令和3年度1256人）。
- 申込、アンケート調査はWeb上で実施した。

実績等

○専門研修の参加状況

①階層別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数 (定員)	定員 充足率
7月15日	14:00～ 16:30	階層別研修 福祉職員 初任者研修B マナー編	大村逸子氏（マナー講師）	12 (25)	48%
7月22日	13:00～ 17:00	階層別研修 福祉職員 中堅職員研修A 講義編	山本雅章氏（調布市社会福 祉事業団）	12 (25)	48%
7月29日	13:30～ 17:00	階層別研修 福祉職員 初任者研修A 講義編	山本雅章氏（調布市社会福 祉事業団）	22 (25)	88%
8月3日	14:00～ 16:30	階層別研修 福祉職員 中堅職員研修B SST編	清水有香氏（精神保健福祉 士）	9 (10)	90%
8月12日	13:30～ 17:00	階層別研修 福祉職員 管理職・施設長研修	山本雅章氏（調布市社会福 祉事業団）	12 (25)	48%
合計			定員有	67 (110)	61%

②テーマ別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数	定員 充足率
5月2日 ～8月31日	オンデ マンド 配信	①福祉職の学びのススメ～実践研究のすすめ～	山本雅章氏（調布市社会福祉事業団）	97	
		②発達障がい者支援の基本	新井豊吉氏（東京家政大学）	140	
		③強度行動障害の理解～問題行動の背景を探る～	藤井 亘氏（NPO 法人）クローバー	135	
		④高齢者をエンパワメントするソーシャルワーク	渡辺裕一氏（武蔵野大学）	75	
		⑤罪を犯した知的障がい者の支援	木下大生氏（武蔵野大学）	102	
		⑥わかりやすい SST	清水有香氏（SST普及協会）	113	
		⑦コミュニティ・オーガナイズングを学ぶ	室田信一氏（東京都立大学）	77	
		⑧エンパワメントのパラドックス	稲沢公一氏（東洋大学）	92	
		⑨ケアの眼差しとは何か～ケア実践の根本問題を考える～	結城俊哉氏（立教大学）	103	
7月27日	10:00～ 12:00	⑩計画相談支援研修（基本事務編）	小島秀人氏（調布市障害福祉課）	11 (20)	55%
9月6日	10:00～ 12:00	⑪障がい者の家族支援～きょうだいの困難・生きづらさについて考える～	新井豊吉氏（東京家政大学）	19 (30)	63%
1月25日	14:00～ 16:00	⑫計画相談支援研修（加算編）	小島秀人氏（調布市障害福祉課）	11 (20)	55%
2月2日	10:00～ 12:00	⑬障害福祉サービスの請求事務の基本	石川大貴氏（調布市障害福祉課）	15 (20)	75%
2月24日	10:00～ 11:30	⑭障害者虐待防止研修	関口氏・針ヶ谷氏（調布市障害福祉課）	29 (50)	58%
2月25日 ZOOM によるライブ配信	10:00～ 12:00	⑮福祉職が知っておきたい発達障がい・てんかんの薬	中川栄二氏（国立精神・神経医療研究センター）	56	
2月28日	10:00～ 12:30	⑯相談援助職への暴力・ハラスメント研修	副田あけみ氏（東京都立大学）	15 (25)	60%
3月3日	10:00～ 12:30	⑰障害者虐待防止研修 援助職のダークサイドを考える	結城俊哉氏（立教大学教授）	26 (25)	104%

3月17日	10:00~ 13:00	⑱BCP(事業継続計画)策定研修(通 所事業所向け)	小島秀人氏 (調布市障害福 祉課)	32 (30)	106%
合 計			定員有	158 (220)	72%
			定員無	990	
			全体	1148	

※ オンデマンド配信研修は申込者数を受講者数としてカウントしている。定員はなし。

○専門研修(集合型・ライブ配信型)の学んだことの実行度(研修約1か月後にアンケート調査)

	おおいに実行してい る・役に立っている	どちらかと言えば実行 している・役に立っ ている	どちらとも言えない	どちらかと言えば実行 していない・役に立っ ていない	実行していない・役 にたっていない	実行する・役立てる 機会がない
初任者 A	2	3	2	0	0	0
初任者 B	3	4	2	0	0	0
中堅 A	1	9	0	0	0	0
中堅 B	2	5	2	0	0	0
管理職	3	4	2	0	0	0
計画相談(基本)	7	3	0	0	0	0
きょうだい	4	6	1	0	0	0
計画相談(加算)	1	3	1	0	0	0
請求事務の基本	3	6	0	1	0	0
虐待防止	8	8	0	0	0	1
てんかん薬	9	24	3	0	0	0
ハラスメント	3	3	1	1	0	1
ダークサイド	5	8	0	0	1	0
合計	51	86	14	2	1	2
(%)	(32.4%)	(54.7%)	(8.9%)	(1.2%)	(0.6%)	(1.2%)

(回答数 157 件) ※BCP 研修は期日までに策定が義務付けられているため、1か月後アンケートは実施せず。

分析・課題

- 専門研修の参加者が減少したのは、配信型研修の数が令和3年度よりも少なかったためと考えられる。
- 令和3年度に比べて集合型の研修を多く実施したことにより、市内の福祉職が交流する時間を設けることができた。
- オンデマンド配信については、受講の機会を柔軟に確保できることから続けてほしいという要望が多い。今後も研修の内容や目的に合わせて、配信型・集合型を検討し、可能な限り配信できるようにしたい。
- 専門研修受講者に研修1か月後にアンケートを実施し、学んだことを実行しているか、実践に役立っているかを調査した。87%が「実行できている・役に立っている」「どちらかと言えば実行できている・役に立っている」と回答しており、実践的な研修を提供できていると考えられる。また、1か月後にアンケートを実施することで、研修内容を振り返る機会となっている。

3 市民参入に向けた普及啓発

結果の概要

- ホームページに研修案内の記事や説明動画を掲載した。また、市内の福祉事業所の求人情報を掲載し、事業所と求職者が結びつくように支援した。
- 福祉についての普及啓発を図るため、「ちょうふ福祉ヒューマンライブラリー」を開催した。本役として身体障がいのある方2人、知的障がいのある方1人、精神障がいのある方1人が参加した。また、読者役は12人参加した。アンケート回答者10人全員が「本」役の人に対する理解が「少し深まった」「深まった」と回答した。（※ヒューマンライブラリーとは人を本に見立てて貸し出す図書館のようなイベント。差別や偏見の軽減を目的とし、少人数で物語を聞くように対話を行う。）

実績等

(1) ちょうふ福祉ヒューマンライブラリー

日時	9月10日 10:00～11:40
場所	こころの健康支援センター本館2階
本	4人 「道～自分のカタチをつくるために～」 高S氏 「白杖は人をひきよせる」 KUCHIBUE氏 「僕のこと」 全てうまくいくように氏 「日々の成長～僕とガチンコ～」 URIBO!氏
読者	12人

(2) ホームページへの求人情報の掲載件数

高齢	障害	保育	医療	その他	高齢・障害	障害・その他	保育・その他	障害・保育・医療	計
6	20	10	0	3	0	3	3	1	46

分析・課題

- 福祉ヒューマンライブラリーについて、参加者からは「本役の方のこのみならず、社会や環境についても理解を深めることができた」「感じたことや大切に思っていることを対話から交換し合えた」等の感想があり、障がいのある方への理解がさらに深まったと思われる。
- 日本語を母国語としない人からの研修申込もあるため、わかりやすい形で情報提供できるように検討したい。

4 事業所あるいは職員間のネットワーク形成

結果の概要

- ちょうふ福祉実践フォーラムは令和2年度、3年度は動画配信で実施したため、3年ぶりに集合形式で実施した。
- 「性」という話しにくいテーマを取り扱うことから、対象を市内福祉職に限定した。その結果、52

人が参加した。児童、障がい分野の福祉職が多く、高齢分野の参加は少なかった。

- 「ジェンダー平等と包括的性教育」というテーマの基調講演の後、3つの座談会に分かれて福祉現場の状況を共有する機会を設け、最後にシンポジウムにて各座談会の学びを統合した。

(1) ちょうふ福祉実践フォーラム

日時	2月19日 13:00～17:30
場所	こころの健康支援センター
テーマ	今こそ福祉現場で性教育とジェンダー平等について考える
対象者	調布市内福祉職
参加者	52人
基調講演	「ジェンダー平等と包括的性教育」 浅井春夫氏(立教大学)
第1座談会	「高齢者と性」参加者:7人 ファシリテーター:小幡真也氏 アドバイザー:西村圭司氏
第2座談会	「障害児と性」参加者:12人 ファシリテーター:進藤美左氏 アドバイザー:日暮かをる氏
第3座談会	「障害者と性」参加者:18人 ファシリテーター:名古屋一氏 アドバイザー:任海園子氏
シンポジウム	「共に生きるための性について考える」 ファシリテーター:結城俊哉氏(立教大学) コメンテーター:浅井春夫氏(立教大学) シンポジスト:各座談会ファシリテーター

分析・課題

- 高齢分野の参加が少なかったのは、支援の現場で性的な問題が少ないからではなく、問題が問題として認識されることが少ないためであると考えられる。
- 本フォーラムによって、利用者の性の問題を前向きに捉え支援しようという機運と連帯感を高めることができた。これを風化させないため、参加者による勉強会や振り返りの機会を設定するなど、継続的な取り組みへと発展させる必要がある。

5 運営委員会

結果の概要

- 学識経験者、関係機関、各ネットワークの代表、当事者を委員として運営委員を開催し、事業運営についての意見交換を行った。

実績等

- 調布市福祉人材育成センター運営委員構成（敬称略）

任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

氏名	選出区分
結城 俊哉	学識経験者（立教大学教授）
伊藤 文子	市民有識者（訪問看護ステーションあんあん）

秋元 妙美	市民有識者（NPO 法人全国重度障害者支援協会 CIL ちょうふ代表）
進藤 美左	当事者又は家族会（調布市障害者（児）団体連合）
及川 正文	地域関係機関（調布ゆうあい福祉公社）
伊藤 巧	地域関係機関（調布市社会福祉事業団相談支援事業所「ちょうふだぞう」）
清澤 茉莉子	調布地域精神保健ネットワーク連絡会
亀田 良一郎	調布市福祉作業所等連絡会
原口 彰男	調布市地域包括支援センター連絡会
小幡 真也	介護保険サービス事業者調布連絡協議会
高村 卓朗	東京都福祉人材センター
長田 将夫	行政（調布市高齢者支援室）
小島 秀人	行政（調布市障害福祉課）
広田 茂雄	社協関係者（理事）
田島 誠	地域関係機関（調布市社会福祉協議会相談支援事業所「ドルチェ」）

○令和4年度調布市福祉人材育成センター運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	6月23日	令和3年度事業報告・決算報告（案）、令和4年度事業計画	11
第2回	9月20日	6～9月事業報告	12
第3回	12月20日 オンライン	9～12月事業報告	14
第4回	3月10日 ハイブリッド	1～3月事業報告、令和5年度事業計画（案）について	10